

IV 高齢期の働き方と生活の展望

1 高齢期の望ましい働き方

本章では、現勤務先に限らず、高齢期に働く場合の働き方に対する希望や展望についてみていく。

(1) 高齢期の働き方

① 高齢期に働く場合に最も望ましい働き方

高齢期（おおむね60歳以上）に働くとするれば、どのような働き方が最もよいと思うか、望ましい働き方を尋ねた（図表IV-1）。

男女とも最も選択した人が多かったのは「就業時間や日数を減らしてパートタイムで働く」であり（女性43.7%、男性33.8%）、特に女性では4割を超える。男性の場合、「現在と同程度にフルタイムで働く」という人もほぼ同程度にいる（31.6%）。この他の「スポット的に働く」、「在宅就労」、「起業」といった働き方を選択する人は数%程度で、少数派である。

図表IV-1 高齢期に働く場合、最もよいと思う働き方

（単位：上段は人数、下段は％）

	調査数	現在と同程度にフルタイムで働く	就業時間や日数を減らしてパートタイムで働く	在宅就労をする	スポット的に働く	起業する	家業の手伝いをする	その他	必要がなければ働かない	わからない
女性	4121 100.0	1056 25.6	1800 43.7	223 5.4	286 6.9	121 2.9	17 0.4	4 0.1	311 7.5	303 7.4
男性	4181 100.0	1320 31.6	1414 33.8	247 5.9	303 7.2	158 3.8	21 0.5	4 0.1	358 8.6	356 8.5

② 高齢期に働く場合に重視したい条件

高齢期に働くとするれば、どのような条件を重視したいか尋ねた（複数回答）。男性と女性では重視したい条件に若干の傾向の違いがみられる（図表IV-2）。

女性では、重視する人の割合が多い順に「通勤に便利なこと」（64.3%）、「賃金に納得できること」（54.5%）、「休みが取りやすいこと」（54.3%）、「ストレスが少ないこと」（53.3%）を半数以上の人があげ、さらに、「経験のある仕事内容であること」（49.6%）、「都合のよい時間や曜日に働けること」（49.3%）、「身体的負担が少ないこと」（41.4%）なども4割以上の人から選択されている。

男性では、「賃金に納得できること」（50.5%）、「通勤に便利なこと」（50.3%）を半数の人があげ、次いで、「経験のある仕事内容であること」（46.6%）、「休みが取りやすいこと」（43.9%）、「ストレスが少ないこと」（41.5%）も4割以上が選択している。全般に各条件の選択率は女性より男性のほうが低い。

図表Ⅳ－２ 高齢期に働く場合に、重視したい条件（複数回答）

（単位：左段は人数、右段は％）

調査数	女性		男性	
	人数	％	人数	％
調査数	4121	100.0	4181	100.0
通勤に便利なこと	2649	64.3	2101	50.3
これまでに経験のある仕事内容であること	2043	49.6	1948	46.6
慣れた職場環境であること	1633	39.6	1437	34.4
都合のよい時間や曜日に働けること	2032	49.3	1519	36.3
休みが取りやすいこと	2236	54.3	1836	43.9
賃金に納得できること	2244	54.5	2111	50.5
手当やボーナスが充実していること	1247	30.3	1143	27.3
親しい仲間がいること	599	14.5	465	11.1
身体的負担が少ないこと	1708	41.4	1231	29.4
ストレスが少ないこと	2195	53.3	1737	41.5
福利厚生制度や施設が利用できること	891	21.6	668	16.0
地域や社会の役に立つこと	437	10.6	383	9.2
若い人たちと一緒に働けること	239	5.8	225	5.4
その他	8	0.2	9	0.2
特に重視する条件はない	154	3.7	321	7.7

③将来的に働き続けたい年齢

現在の勤務先に限らず、特段の事情がなければ、将来何歳ぐらいまで働きたいか尋ねた（図表Ⅳ－３）。男女とも最も多かったのは「65歳ぐらいまで」（女性28.1%、男性30.4%）であり、次いで、女性は「働ける限り年齢に関係なく働きたい」（20.1%）、男性は「70歳ぐらいまで」（25.1%）となっている。65歳を超えて働きたいと考えている人（「70歳ぐらいまで」＋「働ける限り年齢に関係なく」）の割合は男女とも4割弱である（女性38.5%、男性36.9%）。

図表Ⅳ－３ 将来働き続けたい年齢

（単位：上段は人数、下段は％）

	調査数	60歳ぐらいまで	65歳ぐらいまで	70歳ぐらいまで	働ける限り年齢に関係なく働きたい	年金を受給できる年齢になるまで	できるだけ早く引退したい	その他	わからない
女性	4121	426	1158	756	830	371	257	2	321
	100.0	10.3	28.1	18.3	20.1	9.0	6.2	0.0	7.8
男性	4181	409	1272	1051	490	352	268	-	339
	100.0	9.8	30.4	25.1	11.7	8.4	6.4	-	8.1

(2) 高齢期の仕事の見つけ方と働くために必要な準備

① 継続雇用以外で働く場合の仕事の見つけ方

高齢期に働く場合、勤務先の継続雇用制度を利用するのであれば求職活動は必要ないが、それ以外で働くのであれば、求職活動が必要になる。このような場合には、どのように仕事を見つけようとするか尋ねた(図表Ⅳ-4)。

男女とも最も多かったのは「ハローワークに行く」であり、女性では6割近く(56.2%)、男性でも半数近く(46.6%)がハローワークに行くことを想定している。次に多いのは男女とも「求人情報誌、サイトで調べる」(女性41.4%、男性34.1%)である。3番目も女性では「求人広告、チラシなどを見る」(24.7%)と就職情報媒体があがっているが、男性では「それまで働いていた会社の紹介」(31.9%)があげられている。また、「どのように見つければよいかわからない」とする人は男女とも1割強(女性12.1%、男性14.5%)いる。退職前に求職活動に関する情報提供を行うことも重要である。

図表Ⅳ-4 今の会社以外で働く場合の仕事の見つけ方(複数回答)

(単位: 上段は人数、下段は%)

	調査数	それまで働いていた会社の紹介	ハローワークに行く	求人情報誌、サイトで調べる	求人広告、チラシなどを見る	自治体などの相談窓口に行く	民間の職業紹介会社に登録する	派遣会社に登録する	シルバー人材センターに登録する	友人、知人の紹介	その他	どのようにして見つければよいかわからない
女性	4121 100.0	934 22.7	2317 56.2	1706 41.4	1017 24.7	460 11.2	565 13.7	678 16.5	720 17.5	615 14.9	33 0.8	498 12.1
男性	4181 100.0	1333 31.9	1949 46.6	1426 34.1	742 17.7	542 13.0	692 16.6	405 9.7	688 16.5	617 14.8	25 0.6	605 14.5

② 高齢期に働くための準備

高齢期に働くとするれば、今後どのような準備が必要だと考えるか尋ねた(図表Ⅳ-5)。

男女とも最も多かったのは「健康や体力の維持・向上」であり(女性53.6%、男性41.5%)、次いで「高齢期の仕事に必要な知識や技能の習得」である(女性32.4%、男性31.8%)。3番目は、女性では「高齢期の収支シミュレーション」(25.3%)、男性では「中長期的なキャリアプランの設計」(28.2%)である。

「特に考えていない」とする人は男女とも2割近く(女性18.0%、男性19.3%)いる。年齢が上がっても「考えていない」人の割合はあまり変化しない。

図表Ⅳ-5 高齢期に働くのに必要な準備(複数回答)

(単位: 上段は人数、下段は%)

	調査数	中長期的なキャリアプランの設計	高齢期の仕事に必要な知識や技能の習得	職場に貢献する方法の検討	働く可能性のある職場への働きかけ	転職情報の収集	高齢期の収支シミュレーション	健康や体力の維持・向上	人脈づくり	その他	特に考えていない
女性	4121 100.0	893 21.7	1334 32.4	612 14.9	823 20.0	838 20.3	1044 25.3	2209 53.6	890 21.6	3 0.1	742 18.0
男性	4181 100.0	1181 28.2	1331 31.8	734 17.6	755 18.1	874 20.9	896 21.4	1737 41.5	806 19.3	3 0.1	805 19.3

2 高年齢期の生活への展望

本章では高年齢期の生活や生計の見通しについてみていく。

(1) 高年齢期の生活への不安

高年齢期の生活について不安に思っていることを尋ねた(図表Ⅳ-6、複数回答)。男女とも家計面と健康面が2大不安要因となっており、「生活費に困ること」、「年金が充分受給できるか」、「自分の健康」については半数以上の人が不安を感じている。介護に関する不安も大きく、特に女性において家族も含めた健康・介護の不安を感じている人の割合が高い。高年齢期の生活に「不安はない」とする人はきわめて少ない。

図表Ⅳ-6 高年齢期の生活について不安に思っていること(複数回答)

(単位：左段は人数、右段は%)

調査数	女性		男性	
	人数	割合(%)	人数	割合(%)
調査数	4121	100.0	4181	100.0
生活費に困ること	2788	67.7	2522	60.3
年金が充分受給できるか	2609	63.3	2277	54.5
景気の悪化	1321	32.1	1373	32.8
仕事なくなること	1518	36.8	1183	28.3
生きがいなくなること	910	22.1	1066	25.5
人とのつながりが減ること	1014	24.6	808	19.3
時間を持て余すこと	552	13.4	668	16.0
自分の健康	2556	62.0	2264	54.1
家族の健康	1815	44.0	1690	40.4
自分が要介護になること	1663	40.4	1350	32.3
家族・親戚などの介護	1433	34.8	1149	27.5
子供の将来	531	12.9	735	17.6
その他	10	0.2	2	0.0
不安はない	31	0.8	42	1.0
考えたことがない	219	5.3	399	9.5

(2) 高年齢期の収入に関する見通し

65歳以降(年金受給年齢以降)に必要な世帯収入(年金を含む)とその内訳についての想定を尋ねた(図表Ⅳ-7)。

世帯全体で必要な収入(1か月平均)としては、20万円から35万円の間に回答の7割(女性69.8%、男性66.0%)が集中している。有配偶率の違いもあり、世帯の必要想定収入は女性の方がやや低めである。

図表Ⅳ-7 65歳以降(年金受給年齢以降)、世帯全体で必要な収入(年金を含む1か月平均)

(単位：上段は人数、下段は%)

	調査数	20万円未満	20～25万円未満	25～30万円未満	30～35万円未満	35～40万円未満	40～45万円未満	45～50万円未満	50～60万円未満	60～70万円未満	70～80万円未満	80～90万円未満	90～100万円未満	100万円以上
		人数	割合(%)	人数	割合(%)	人数	割合(%)	人数	割合(%)	人数	割合(%)	人数	割合(%)	人数
女性	4121	516	1225	1048	604	311	132	123	79	11	11	5	4	52
	100.0	12.5	29.7	25.4	14.7	7.5	3.2	3.0	1.9	0.3	0.3	0.1	0.1	1.3
男性	4181	224	832	1086	841	529	197	213	118	26	12	6	7	90
	100.0	5.4	19.9	26.0	20.1	12.7	4.7	5.1	2.8	0.6	0.3	0.1	0.2	2.2

65歳以降必要と考える世帯収入の内訳をどのように想定するかについて、世帯収入全体を100とした構成比(%)で回答してもらった。その平均値をみると、男女とも半分近くを「働いて得る自分の収入」でまかない、自分の年金を3割程度と想定している(図表IV-8)。年金受給年齢以降も、働いて得る収入がメインになると考える人が多い。

図表IV-8 65歳以降の世帯収入の内訳見込み(世帯収入全体=100)

(単位: %)

	働いて得る自分自身の収入	家族の収入	自分の年金	その他の収入	計
女性	44.8	17.8	30.1	7.3	100.0
男性	49.1	9.4	35.0	6.6	100.0

※世帯収入全体を100として想定する収入構成の平均値。女性4121人、男性4181人